# 本のひろば

［月刊］キリスト教書評誌

November 2023 11

ISSN 0286–7001
一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2023年11月1日発行（毎月一回1日発行）第791号

●出会い・本・人
児童書からキリスト教史まで　富田雄治

●エッセイ
第一八回東北アジア・キリスト者文学会議に出席して　釘宮明美

●特集 シリーズこの三冊！
階級闘争を理解するためのこの三冊！　マニュエル・ヤン

●本・批評と紹介
大島　力 著　VTJ旧約聖書注解　イザヤ書　1～12章　越川弘英
上田光正 著　カール・バルト入門　近藤勝彦
大沼　隆 著　困惑を超えるもの　松本宣郎
袴田康裕 著　コリントの信徒への手紙二講解〔上〕　鎌野直人
山本　通 著　チョコレートのイギリス史　金澤周作
前川　裕 著　今さら聞けない!?キリスト教Ⅵ　古典としての新約聖書編　菅原裕治
平野克己、小泉　健、吉田　隆、荒瀬牧彦、安井　聖他 著　三要文深読　使徒信条　松本雅弘
ジョン・H・ウェスターホフ、W・H・ウィリモン 著／荒井　仁、越川弘英 訳　ライフサイクルと信仰の成長　古谷正仁
ユージン・H・ピーターソン 著／友川　榮 監訳／川上直哉、齋藤　顕、サム・マーチー 訳　聖書に生きる365日一日一章　古谷正仁

近刊情報
書店案内

10月の新刊（価格表示は税込）

## コリントの信徒への手紙二講解 下
6-13章

**袴田康裕** 著

今や、恵みの時、今こそ、救いの日！　聖書の論理を丁寧に追いながら説き明かす、好評の講解説教集。全2巻。

四六判・並製・284頁・定価3,080円

## [改訂新版] 自由への指針
今を生きるキリスト者の倫理と十戒

**大嶋重德** 著

信仰、愛、性、結婚、仕事、経済、政治、戦争、正義、善悪、欲望……、私たちが抱えるリアルな倫理的問題を信仰者としてどのように考えればよいのか？　好評であった旧版を全面的に見直し、焦眉となっている課題についても大幅に加筆。グループで話し合うための設問付き！

四六判・並製・216頁・定価2,420円

## ウェストミンスター小教理問答
日本キリスト改革派教会公認訳

厳密な教理と深い敬虔が一体化したピューリタンの霊性の結実として、時代・地域を超えて愛されてきた「ウェストミンスター小教理問答」。好評であった袴田訳を修正して完成した、待望の公認訳。

新書判・並製・70頁・定価880円

## 秘密の花園

**F・H・バーネット** 著
**脇　明子** 訳

閉ざされた庭で少女が体験する奇跡の物語。児童文学翻訳の名手が贈る、世紀を超えて愛される傑作の邦訳決定版！

四六判・上製・440頁・定価2,310円

オンデマンド版復刊

## 加藤常昭説教全集15
ヨハネによる福音書4

**加藤常昭** 著

四六判・並製・344頁・定価4,180円

自然との関係を聖書から探究する

## 旧約聖書と環境倫理
人格としての自然世界

**マリ・ヨアスタッド** 著　**魯　恩碩** 訳

聖書に描かれた自然世界は本当に人間中心的なのか？　旧約テキストにおける自然物を活動的な存在として読み解き、環境問題と聖書の関係を再考させる画期的な研究！

A5判・上製・344頁・定価6,050円

教文館　〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549（出版部直通）《星・図書目録》
キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は〈e-shop 教文館〉http://shop-kyobunkwan.com/ まで！

出会い
本
人

# 児童書からキリスト教史まで

富田雄治

本との出会いに導いてくれたのは母でした。団地に住んでいた頃、母はクリスチャンのママ友から児童書を紹介して貰っていたようです。ある時期から本棚にローラ・インガルス、アストリッド・リンドグレーン、C・S・ルイスなどが並ぶようになり、寝る前に読み聞かせてくれました。

小学3年の冬に戸建てに引越し、友達が減り、本を読むようになりました。一番読書したのは小学生の時です。と言っても、読んでいたのは名探偵ホームズや怪盗ルパン、それに『三銃士』などでした。

受験期にトルストイ『戦争と平和』を読破しましたが、これは逃避でもありました。世間知らずの青年ピエールに共感しながら「歴史における個人の役割」といった歴史哲学的テーマを考えるきっかけにもなりました。

大学では英国近代史の演習に加わり、越智武臣『近代英国の起源』を読みました。その後の近代英国史研究に影響を与えた著作でした。資料に基づき通説を批判する歴史学の方法をこの本からも教えられました。

卒業後、高校で非常勤講師を二年務めてから、日米通算八年間、神学校での学びが許されました。ゴードン・コンウェル神学校ではアドヴァイザーであったガース・ロゼル教授からマースデン『ファンダメンタリズムとアメリカ文化』（G. Marsden, *Fundamentalism and American Culture* [Oxford University Press, 1980]）を紹介されました。私の出身教会は、米国の保守的プロテスタント教派から派遣され、後に独立されたコール宣教師夫妻が開拓されました。彼らの信仰の文化史的背景をこの本で知りました。

十代・二十代に出会う良い本は一生の財産です。それで子供たちにも読書を勧めましたが、煙たがられてしまいました。思うようには行かないものです。

（とみた・ゆうじ＝JECA取手キリスト教会牧師）

# 第一八回東北アジア・キリスト者文学会議に出席して

釘宮明美

二〇二三年八月三日から六日まで、韓国の釜山（プサン）にて開催された第一八回東北アジア・キリスト者文学会議に参加する機会を得た。本会議の創始は一九八七年に遡る。隔年で日韓両国で交互に開催し、文学に携わる東北アジアのキリスト者が広義のキリスト教文学を対象に討議し、互いに研鑽と交流を深め、文学を通して福音の伝播に資することを目的としている。コロナ禍による二年間の延期を経ての開催であり、韓国側から三十名、日本側から九名が参加した。酷暑の日本を脱出し、眩い夏の陽射しが青い海と白い街に照り映えるなか、副会長の梁汪容（ヤンワンヨン）氏、宋廷宇（ソンチョンウ）氏らが金海（キムヘ）国際空港で温かく出迎えて下さった。

水営路（スヨンロ）教会エレブー教育館を会場に行われた三泊四日の集いは、任満浩（イムマンホ）会長による挨拶と日本側代表の柴崎聰氏による答辞で幕を開けた。水営路教会重唱団の美しい合唱と心づくしの韓国料理によるレセプションが続き、第十二回アジア・キリスト教文学賞が詩人で藍理教神学大学名誉教授の閔泳珍（ミンヨンチン）氏に授与された。

全体テーマは「私（私たち）にとってイエス・キリストは誰なのか」であり、金奉郡（キムボングン）氏の基調講演「キリスト教作家の自己同一性回復」はこの問いかけへの対峙を促すものであった。プログラムの中心は、あらかじめ選定された日韓のキリスト教詩・小説に対して各々両国から行われる発題と質疑応答である。本多寿の詩「聖夢譚・拾遺（1）」「同（2）」について宋廷宇氏と岡野絵里子氏、李承雨（イスンウ）の短編小説『心の浮力』について朴南壎（パクナムフン）氏と芹川哲世氏、閔泳珍の詩「幼いイエス」「ユダの口づけ」について服部剛氏と南錦熙（ナムグムヒ）氏、太宰治の短編小説『駈込み訴え』について金鍾曾（キムチョンヘ）氏と奥野政元氏がそれぞれ発題を行い、参加者の間で熱い議論が交わされた。

存在の痛みに震え、その悲しみと愛が一つに結ばれていくような本多詩人の詩語、そして岡野・宋両氏による発題には、特に心響くものがあった。初読の李承雨の小説は、

日韓の参加者たちと（釜山 水営路教会・エレブー教育館）

旧約聖書のエサウとヤコブの兄弟物語を下敷きに、家族という卑近で日常的な次元で露わにされる愛の諸相の繊細な振幅を浮かび上がらせる。神学者でもある閔泳珍氏の詩、また一人称語りを存分に生かした太宰の短編は、共にイスカリオテのユダをモチーフとするが、前者は特に議論を呼び起こした。キリスト教や聖書的世界を題材にした文学作品の場合、重心が「キリスト教信仰」にあるか「文学」にあるかは、作者の立つ地平によって異なるうえに、作品自体をどう評価・解釈するかは、読み手がいずれの側に軸足を置いて受容するかでも異なる。それが「キリスト教文学」の困難であり両義性でもあり、この自覚が文学とキリスト教の双方にわたる豊かな創造性に繋がるのだろう。さらに付言すれば、作品空間にそれとは異質の垂直的な次元からの美や救いの光を垣間見せるか、切り拓きうるかが「キリスト教文学」には問われている。

三日目午後の文化体験では、朝鮮戦争（韓国戦争）で戦死した国連軍戦没者の墓地、在韓国連記念公園を見学し、平和を祈念する思いを新たにした。その後、日本代表団側主催の夕食会がザガルチ市場で催され、歓談を楽しんだ。これまでの会議参加者の詩文を収めた日韓対訳のアンソロジー集『あなたは共におられる』（同会議編、創造文藝社、二〇二三年）が発刊され、韓国キリスト教現代詩人の豊かな創作活動を知ったのは貴重な体験であった。健康面の不安から直前まで参加を躊躇っていたが、言葉を交わした幾人もの詩人から美しい詩集を頂戴し、文学的交流の悦ばしいひと時を味わった。

後援のキリスト教文書センター、実行委員会代表の柴崎聰氏、補佐された市川真紀氏、宋廷宇氏、司会進行・通訳の権宅明（クオンテクミョン）氏、権ヨセフ氏はじめ関係諸氏に感謝申し上げる。

（くぎみや・あけみ＝白百合女子大学カトリック教育センター教授）

▼シリーズ　この三冊！

# 階級闘争を理解するためのこの三冊！

マニュエル・ヤン（日本女子大学教員）

二〇二三年八月半ばに小説家の早助ようこと永山則夫をめぐって対談をした。対談に向けて永山の文章を初めて読んだ。「きら星のような自伝小説群」と早助が呼ぶ作品を一気読みしてから、永山の分身である「N少年」が網走から青森そして東京へと流浪するなかで直面する幾多の日常的試練を生々しく追体験し、彼が稀代のプロレタリア作家であると確信した。

極貧の母子家庭で「捨て子」同然の生活を強いられた永山は、自らの労働力を売ることでしか生存できない文字通りの「無産階級（プロレタリア）」だった。新聞配達、フルーツパーラーや米屋の従業員、日雇い労働などの職を転々とし、組合活動や労働運動に関わらず、その日暮らしの生活で浮上する些細な出来事で一喜一憂したりするNを、マルクスのいう「即自的階級」と呼んでもいい。彼の階級闘争は、逃げるか、万引きするかという二つの手段だけに終始する。

永山のプロレタリア小説が優れている理由は、例えば、リトアニア系労働者が働くシカゴの精肉工場の酷い状態を暴いたアプトン・シンクレアの名作『ジャングル』みたいに労働の悲惨を訴えたり社会主義の必要性を説いたりせず、永山自身の個人的経験の実存に徹するからだ。神や革命の恩寵が一切保証されない現実を、その強いられた限界の中で生き延びようともがき続け、救いの道を見つけたとたんに再び転落するという物語の反復構造そのものに、そうした実存意識が滲み出ている。要は、説教くさくないのだ。理想的な社会像や安易な倫理観を永山の自伝小説はことごとく拒否する。

労働者階級の歴史を労働者自身の視点からダイナミックに綴ったエドワード・パーマー・トムスンの名著『イングランド労働者階級の形成』（以下、『形成』）は、永山のように切羽詰まった状態で即自的に生きざるをえない労働者のリアルを肯定的に読み取る方法論を打ち出している。「われわれは、道学者流の立場からではなく（「キリストの貧しき者たち」は、いつも立派というわけではなかった）、ブレヒト流の価値観、つまり民衆の宿命論や、イングランド国教会のお説教をものともしない皮肉や、自己保身の強さなどを見抜く目をもって資料にあたるべきである」とトムスンは述べる。この「悪魔の光に照らして逆さに」文献を読む反律法主義的解読法は、単に労働者の原像をつかむ方法ではない。

例えば、職人詩人ウィリアム・ブレイクが紡ぎ出した資本主義と帝国に対するラディカルなイデオロギー批判に、反律法主義の語法と隠喩が活用されていることにトムスンは着目する。労働者が主人に従順に従い、国のために戦争に行くのが神の御心であるという支配者に都合のいいイデオロギーがはびこる社会では、「悪魔の光」のなかで物事を理解し生きてこそ、真理に近づく最善の方法だとブレイクは考えた。一七世紀のイギリス革命から一八世末までの一五〇年間、反律法主義の思想や態度は大衆文化の地下水脈で流れ続け、産業資本主義の黎明期に労働者が誰にも頼らず、自らの力と伝統を持って階級としてのアイデンティティを確立するうえで役に立った。

『資本論』以降のマルクス主義研究書のなかでトムスンの『イングランド労働者階級の形成』よりも優れたものはない。本書は、労働者階級自身による行動とその革命的創造力の重要性を近代史の中心的ドラマとして再設定している」。永山が東京で集団就職し、スラムに住む貧しい黒人の大衆がロサンゼルスのワッツで蜂起していた一九六五年にアメリカ奴隷史研究者ジョージ・ローウィックが書いた書評の一文である。ローウィックはブルックリン出身のユダヤ系白人だったが、公民権運動がブラックパワーに移行するこの転換期に黒人労働者との連帯を保ち続け、トリニダードで生まれ育った黒人革命家C・L・R・ジェームズを通じて、ストークリー・カーマイケル、エメ・セザール、ジョージ・ラミングといった黒人の活動家や知識人と交流した。そうした運動の熱気に深く感化されたローウィックは、奴隷自身による「行動とその革命的創造力の重要性を近代史の中心的ドラマとして再設定」する偉業を成し遂げる。それが全四一巻に及ぶ元奴隷の聞き取りをまとめた『アメリカの奴隷――複合的自伝』（*The American Slave: A Composite Autobiography*）であり、その解説である第一巻の『日没から夜明けまで』（以下、『日没』）だ。じっさい、この大規模な社会史のプロジェクトのきっかけは、六四年にアメリカの歴史につ

いて話した際にジェームズに聞かれた「奴隷たちは奴隷制に対してどう考えたのか」という問いだった。イギリスの労働者同様、アメリカの奴隷たちも自らの手で宗教を作り変えて、闘争手段にしたことをローウィックは発見する。「奴隷制に対する日常的抵抗、重要な奴隷のストライキ、「地下鉄道」、自己の卓越した社会を確立しようとする奴隷主たちの力を絶えず消耗させる闘争は、すべて奴隷の宗教、被抑圧者の宗教、現世で救われない者の宗教から生まれたのである。」

世界史上初めて成功した黒人奴隷革命を近代プロレタリアの歴史（『ブラック・ジャコバン―トゥサン＝ルヴェルチュールとハイチ革命』）として書いたジェームズがトムスンに初めて会った場に、ローウィックは居合わせている。永山が初の自伝小説「木橋」を上梓する二年前の一九八一年にトムスンの弟子である社会史家ピーター・ラインボーは、「もしC・L・R・ジェームズがE・P・トムスンに一七九二年に出会っていたら」というエッセイを発表した。イギリスの労働者階級による最初の組織「ロンドン通信協会」がトーマス・ハーディーたちによって一七九二年に立ち上げられる場面の描写で『形成』は始まる。ハーディーが元奴隷の船乗りオラウダ・イクイアーノと親交があり、二人はおそらく政治的に協力し合っていたという奴隷史家ジェームズ・ウォルヴィンの話を、ローウィックが主催したミズーリ大学のゼミで聞いたとラインボーはこのエッセイで回想している。イクイアーノとハーディーの出会いは、イギリス労働者の自己活動を解明したトムスンとカリブの黒人奴隷の自己活動を解明したジェームズの見識を結合し、新しい大西洋民衆史の構想を具体化する重要な事例になる。

大西洋をまたぐ労働者階級のこの壮大な歴史はラインボーと共著者マーカス・レディカーによって、一九年後の二〇〇〇年に『多頭のヒドラ』としてようやく活字化される。九四年にネオリベ資本主義に対して鬨の声を上げた先住民のサパティスタ闘争の支援をしていた経済学者ハリー・クリーヴァーの授業で『形成』や『日没』を紹介された大学生のわたしは、やがてラインボーに師事するためにアメリカ中西部に引っ越し、『多頭のヒドラ』の草稿を読んで、歴史を底辺から書く行為が歴史を作る階級闘争と不可分だということを学んだ。そして、こうした闘争の「狭き門」を通してしか、聖書や神学の言葉が本当の意味で血肉化されないことも。

今でこそ、『形成』は歴史学の古典として広く参照され、その著者も世界的な反核活動家として記念されているが、出版当時は風当たりが強く、トムスンは転向を拒む元共産党員の新左翼知識人として白眼視されていた。まっさきに『形成』を高く評価したのは、東側諸国の国家社会主義にも西側諸国の資本主義にも与しない、永山と同世代の若い活動家たちだった。「『形成』には運動の読み方と学術的（アカデミック）な読み方がある」と指摘したラインボーはその一人だ。学問の権威あるいは歴史の偉人としてではなく、誰でも自由に平等に参加できる労働者のラディカルな民主主義の系譜に連なる人物としてトムスンやローウィックやジェームズに「運動の読み方」を介して出会えたのは幸いだった。それができたのは運動経験の洗礼を受け、「狭き門」に続く「細い道」を歩み続け、「運動の読み方」を継承してきたすばらしい同伴者たちのおかげだ。正しい言動を独善的に振りかざし反対意見を排除する体制とその御用マスコミからキャンセルカルチャーにいたる現在の社会状況もまた、反律法主義的批判とその源泉である制限なき階級闘争による破壊を必要としている。

エルサレム神殿も破壊され、ローマ帝国も滅亡した。わたしたちの番はいつ来るのか。

NOW PRINTING

**『破流　永山則夫小説集成1』／『捨て子ごっこ 永山則夫小説集成2』**

永山則夫：著
共和国
2023年10月刊
A5変形判400頁／480頁
3,740円／3,960円

（10月刊行予定）

**『イングランド労働者階級の形成』**

E・P・トムスン：著
市橋秀夫、芳賀健一：訳
青弓社
2003年刊
A5判 1360頁
22,000円

**『日没から夜明けまで――アメリカ黒人奴隷制の社会史』**

G・P・ローウィック：著
西川　進：訳
刀水書房
1986年刊
四六判 299頁
2,640円

†本・批評と紹介

# イザヤ書注解の新たなスタンダードとして

〈評者〉 **越川弘英**

VTJ旧約聖書注解
**イザヤ書**
1～12章
大島　力著

最初にお断りしておくと、私は聖書学を専門とする者ではないので、以下の文章は主に実践神学、特に説教との関係から記すことをご理解いただきたいと思う。

本書は「VTJ旧約聖書注解」シリーズの一巻として、イザヤ書1～12章（「第一イザヤ」の一部）を扱う注解書である。内容はシリーズに共通する構成に従い、まず全体の「緒論」が記され、その後、単元ごとに順次テキストを取り上げ、【翻訳】【形態／構造／背景】【注解】【解説／考察】の順に解説が行われる。【翻訳】における私訳、【形態／構造／背景】や【注解】における最新の研究を含む聖書学の知見からの叙述など、いずれも著者の学問的な蓄積と洞察を表しているが、その筆致は概して分かりやすく平易である。【解説／考察】はこうした叙述を踏まえて、著者の思想や見解が示される部分であり、最も関心を持って読ませていただいた。言うまでもなくこの部分も神学的聖書学的視点からの解説が主となるとはいえ、それと共に現代の教会や世界に直接訴える数々の洞察や示唆を著者は記している。ここには長年にわたって牧師としても働いてこられた筆者の姿が反映されているのかもしれない。

若干の例を挙げるなら、まず1章10～20節のイザヤの祭儀批判をめぐって、著者はその批判の内実を「祭儀」そのものよりも「（礼拝する）ひと」の問題、そして「社会正義」や「倫理」と関わる問題として記すが、これなどは私たちが礼拝を考える際の問題提起として常にわきまえるべき指摘であろう。また平和を求める「剣を鋤に、槍を鎌に打ち直す」という有名な句を含む2章1～5節について、元来は農民兵を徴集するための「標語」であった「鋤を剣に、鎌を槍に」を、あえて「イザヤはそのスローガンを逆転させ、諸国民が戦いを止め、農耕に勤しむことを促している」（六二頁）という。この句はイザヤ以外の複数の預言書でも取り上げられており、「剣を鋤に」なのか、「鋤を剣に」なのか、大きく揺れ動く世界と日本の現実のもとで、今日私たちが改めて学ぶべき箇所であると思わされた。

今回、本書を読んで「書き継ぎ」（Fortschreibung）という術語を教えられた。「ある時代に書き記された言葉を、後の時代の人々が自らの問題状況の中で新たに受けとめ、書き進めること。『発展的加筆』とも訳される」（一〇一頁）という。聖書学における伝承史、編集史、影響史などと関わる用語であろう。「書き継ぎ」はイザヤ書が形成されるまでに如何に多くの人々がそれに関与し、熟考し、一字一句を加えてきたかを示している。本書はこうした視点を踏まえながら、イザヤ書の中の多様性と統一性を指し示そうと努めている。さらに言えば、ある意味、説教もこうした「書き継ぎ」という作業の今日的な営みであると言えるだろう。説教者は「良い書き継ぎ」を求めて過去の「書き継ぎ」から学ばなければならない。

イザヤ書は重要な旧約の文書であると同時に新約聖書の中で多く引用され、「苦難の僕」などいくつもの重要な主題の淵源となる文書である。それだけに多くの注解や概説が書かれてきたが、本書（13章以下の今後の注解も含めて）はその中にあってひとつのスタンダードなイザヤ書注解の位置を占めるものとなることを期待させる良書である。

（こしかわ・ひろひで＝同志社大学教授）

（A5判・二〇二頁・定価三九六〇円・日本キリスト教団出版局）

『沈黙』『深い河』『侍』など、心に響く珠玉のことばが、いまよみがえる

**遠藤周作366のことば**

山根道公 監修

遠藤周作のことばに一年を通して触れることができるよう、小説やエッセイから366の珠玉のことばを厳選して収録。美しいイラストもちりばめられ、プレゼントにも最適。

四六判 並製・160頁・定価1980円

**これからを生きるあなたへ**
**聖書の知恵 箴言31日**

小林よう子

「主を畏れることは知識の初め。」にはじまる『箴言』の全31章の各章から選句し、人生を豊かに賢く生きるためのメッセージを贈る。人生の転機を迎える人たちへのプレゼント本に。

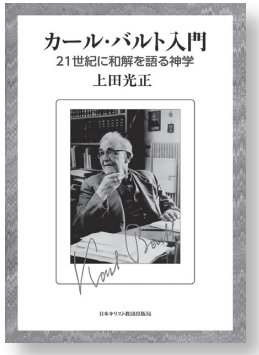
四六判 並製・80頁・定価1320円

**日本キリスト教団出版局**
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 FAX 03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp《価格10%税込》
https://bp-uccj.jp

†本・批評と紹介

# 著者上田光正氏の「白鳥の歌」

〈評者〉近藤勝彦




**カール・バルト入門**
21世紀に和解を語る神学
上田光正著

上田光正氏は、60年に近い伝道者の奉仕を踏まえ、「残りの人生で日本の教会に貢献し得る最大の事柄」を期して、本書を著わした。本書は、牧師たちや神学を学ぼうとする人たちに対する上田氏のいわば遺言に当たる。白鳥はその生の最後に見事に歌うという。上田氏は本書によってカール・バルトの神学を自分の「白鳥の歌（はくちょうのうた）」とする一群の人々に加わった。

バルトが桁外れな神学者として巨大な雄姿を展開したのは、大冊13巻をもってなお未完に終わった『教会教義学』とそれ以前の『ロマ書』や他の諸著作と膨大な量の論文を含む一大著作群によってであった（その主要なものは本書の文献表に上げられている）。著者はその膨大な著作によって展開されたバルト神学を本書一七〇頁に集約して「バルトに入門せよ」との喝を与える。離れ業とも言うべきこの集約を可能にさせたのは、二つの方法である。一つは「バルト神学の神髄」を彼の「福音理解」、具体的には『教会教義学』の「神の選びの教説」と「和解論」第一部に見い出す道であり、もう一つはそれ以前や他のバルトの全著作をこの頂点に向かう稜線として理解する道である。

後者の道は、バルトの神学的進展の中に断絶や対立や飛躍を見ない立場である。そこで著者は、『教会教義学』の「三位一体論」を紹介しながら、「それはバルトが『ロマ書』の冒頭で啓示について述べたものの丁寧な語り直しであり、……アンセルムスから学んだ『神学するとは何か』ということの応用」であると言う。著者は巨大なカール・バルトの神学の歩みの中に「直線的な進展」を見る立場に立つ。

本書の主要部分をなすのは前者、つまり「神の恵みの選び」と「キリストによる神との和解」の中にバルト神学の神髄があると見て（本書の第5章と6章）、それがおよそカール・バルトの全神学の頂点をなすとする道である。「神の選び」の内容は、あらゆることに先立って「神、我らと共にいます」という神の自己規定の「原決断」がなされたことと言う。著者の言い方では、それゆえ人間が救われるのは人間の「はからい」ではなく、「一〇〇パーセント神の『はからい』であり、それ以外の何ものでもない」。「和解論」の方は、その福音は第一部に描かれた贖罪論にあるとされ、上田氏はそれを「裁き主が裁かれた」という強調に見て、「刑罰代償説」でなく「審判代受説」と呼ぶ。

バルト神学への入門の必要とその意味を力説する著者の熱誠は、本書によって十分に伝わるであろう。読者は、本書によってバルトの著作そのものへと促され、本書の意図は達せられるに違いない。

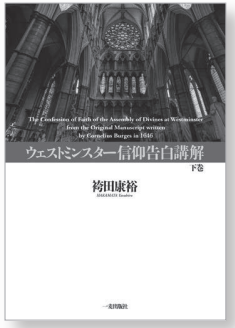
しかし、バルト神学をどう解釈すべきかという問題を言えば、当然本書に対する反論はあり得る。バルト自身がバルト主義者でなく「バルトを越える」（例えば『ロマ書』から『教会教義学』へ）と言ったのだから、バルト神学内における断絶や超克が指摘されよう。さらには「バルト入門」の後に、日本における牧師・伝道者の経験に基づいて「バルトとの対論」や「バルト神学を越える試み」もあるはずと、著者に対して求められるのではないだろうか。

（こんどう・かつひこ＝東京神学大学名誉教授）

（四六判、一七六頁、定価二六四〇円、日本キリスト教団出版局）

**ウェストミンスター信仰告白講解**
下巻

袴田康裕
*HAKAMATA Yasuhiro*




**水垣渉・京都大学名誉教授から「教会での実際的使用のための牧会的配慮に満ちていると同時に，原典の細部にわたる綿密な検討と教理史的背景の究明にも十分な目が注がれている」と評された「講解」.**

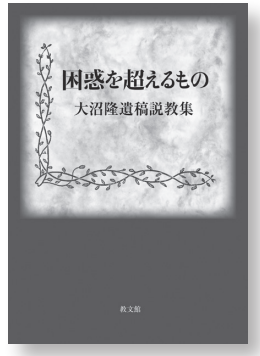
A5判・上製
定価 5,280［本体 4,800＋税］円
ISBN978-4-86325-151-9

株式会社　一麦出版社
札幌市南区北ノ沢３丁目 4-10
TEL（011）578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯　mobile.ichibaku.co.jp

†本・批評と紹介

# 聴く者に寄り添う説教者

〈評者〉 **松本宣郎**




**困惑を超えるもの**
大沼隆遺稿説教集
大沼　隆著

先年逝去された大沼隆先生は若くして仙台の教会の牧師となり、生涯その教会で奉仕されたが、並行して宮城学院中高校の聖書教師、そして校長、学院全体の宗教総主事をも務められた。評者はその宮城学院の教学の責任を共に担った時期があり、先生の信仰と働きに教えられるところが大きかった。この度先生を敬愛する方々の尽力により、残された膨大な説教ノートから精選された四〇編の説教が一冊にまとめられた。その刊行を喜びたい。

四〇編は主題により旧約、新約編と卒業式などにおける説教の三部に編集されている。一九六六年から二〇一八年まで長きにわたって語られた説教が収載されているが、著者三〇代の一九七〇年初期までのものが半数を占める。日本の学校・大学に学生らの異議申し立てがあり、社会的にも激動の時代であった。これらの説教には当時の空気が反映して採録される存在感を見出されたものだろうか。

通読してまず感じたのは文章の心地よいテンポである。「である」調で断定的、歯切れがよい。実はこの文章から評者はかつて礼拝堂で耳にしていた説教の温かみのある語り方との違いを感じた。語るときは当然ていねい語だからソフトにはなるはずだが、それ以上に二者には落差があるのだ。思うに著者はノートに記す説教には、聖書、キリスト、そして世界と社会の当時の現況への、いわば湧き上がる熱い思いを書き記したのではないか。それが礼拝堂で語るときには聴き手に対する配慮が、ノートの言葉を和らげさせたのではないか、それは著者の人柄を知る者としては理解できるところではある。

もう一つの本書の特色は著者の驚嘆すべき読書量と、それぞれの時代の世界情勢や社会の風潮への旺盛な吸収力である。ソクラテス、ヘーゲルは言うに及ばず、心理学、哲学の研究書、金子みすずの詩に至るまで、またニュースやテレビ番組の数々が、縦横無尽に、しかも適切に引用され、信仰的本論へと導かれる。全体に、聖書を基本に置きつつも、聖書講解説教ではない。著者が本書のために書き下ろしたわけではないが、「まえがき」（一九七八年筆）で「現代に生きる信仰」と題して、現代社会に生きるための教会の自己変革という考えを強調しているのも、著者が現実世界に、キリストの福音のまなざしで批判的に関心を持ち続けたことを示唆するし、その姿勢が著者の説教の基調をなすことが理解できるのである。

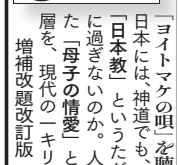
さらに大事な特色は著者が、私たちはみな、キリスト教信仰をなかなか受け容れがたく、あるいは信仰者であっても不幸な現実につまずいたり、社会や人生に絶望するものだ、しかし大丈夫、私たちは聖書に聴き、キリストにすべてを委ねることが出来るのだから道は開く、希望を持って生きてゆけばいい、と繰り返すことである。書名の示すとおりである。著者はその生涯を通して、自分もまたつまずき、絶望する人間であることをそのままあからさまにして、その自分がキリストから希望を与えられていることを確信して、だから大丈夫だと語ってやまないのである。本書には著者の手になるスケッチも載せられ、著者の幅の広いしなやかな生き方を垣間見させる。聴く者の地平で語る本書に親しみと励ましを読者は感じるであろう。

（まつもと・のりお＝前東北学院理事長・大学長）

（B6判・三二〇頁・定価一六五〇円・教文館）


ヨベルの新刊／重版案内

**「日本教」の極点**
**母子の情愛と日本人**
日本基督教団戸山教会主任牧師、青山学院大学名誉教授
**西谷幸介**［著］




「ヨイトマケの唄」を聴くと涙が止まらないのはなぜ？日本には、神道でも、仏教でも、キリスト教でもなく、「日本教」というただひとつの宗教が存在しているに過ぎないのか。人々の意識や宗教観に織り込まれた「母子の情愛」と、そこから見える日本社会の深層を、現代の一キリスト者である著者がたどる——。
増補改題改訂版　新書判・二四〇頁・一四三〇円

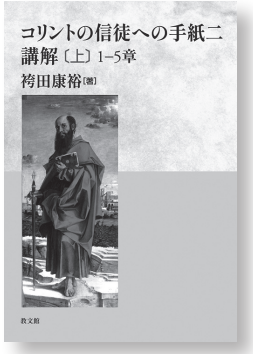
**青野太潮　どう読むか、聖書の「難解な箇所」**
「聖書の真実」を探究する　3版　新書判・二八八頁・一三二〇円
**小友　聡　謎解きの知恵文学**
旧約聖書・「雅歌」に学ぶ　2版　新書判・二八八頁・一三二〇円
**鎌野善三　3分間のグッドニュース［福音］**
10月出来予定　3版　A5判・三〇四頁・一七六〇円
**鎌野善三　3分間のグッドニュース［歴史］**
11月出来予定　3版　A5判・二七二頁・一七六〇円
**松下景子　語らいと祈り**
信仰の12ステップに取り組んだ人々の物語
11月出来予定　2版　四六判・一七六頁・一六五〇円

ヨベル *YOBEL Inc.* info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851　FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈　（税込）

†本・批評と紹介

# 人間の生の現実の中で、神の御心を示す

〈評者〉鎌野直人




**コリントの信徒への手紙二講解〔上〕**
1–5章
袴田康裕著

二〇一九年と二〇二〇年にいのちのことば社からコリントの信徒への手紙一講解説教集（全三巻）を出版した袴田康裕氏によって、第二の手紙の講解説教集が教文館から出版された。氏は神戸改革派神学校の教授であり、日本キリスト改革派の緒教会での説教者でもある。本書は、同教団の千里山教会所属めぐみキリスト伝道所（川西市）という一〇名ほどの群れで語られた説教に基づいたものであり、一章から五章までの二一編の説教が収められている。それぞれの説教の前には当該の聖書の箇所が新共同訳で記載されている。

氏もあとがきで語っているが、日本語による第二の手紙の講解説教集はそれほど多くない。その原因として緒論問題があるとのことである。第二の手紙は本来から一つの手紙なのか、それとも複数の手紙がまとめられたものなのか、研究者の間では議論は尽きない。氏は穏健な批評的立場をあえて取って、その上でコリントの教会が置かれた状況を理解し、第二の手紙を読み進めている（詳細は最初の説教に記されている）。

本書に見られる氏の講解説教の原則は次のことばに表されるだろう。「神の言葉は、きれいごとを語るものではありません。むしろ人間の生の現実の中で、神の御心を示すのであり、それゆえに、私たちの現実の生活に届くものなのです」（九頁）。氏の説教はあくまでも神の言葉としての聖書を語るものである。しかし、パウロとコリントの教会の間で起こった様々な出来事を無視するわけではない。攻撃、傷、悩み、涙、愁い、厳しさ、慰め。これらが複雑に絡み合う中で苦悩するパウロの姿を氏は語る。聖書は「聖人の書」と誤解されやすいが、実際はそうではない。だからこそ、一世紀のコリントの教会が経験した出来事が生々しく語られれば語られるほど、二一世紀の日本の教会がそこに透けて見えてくる。初代教会だろうが、現代日本の教会だろうが、人々のうちには深い闇があるのだ。しかし、そこに神の言葉が一条の光となってあざやかに輝く。そこに希望があるのは、いつの時代も変わらない。

氏の講解説教のスタイルは第一の手紙の講解説教とほとんど変わらない。各節を一文一文、丁寧に紐解いている。筆者は書評を書くために一気に読み進めたが、やはり毎週の説教を聞くかのように一篇一篇を丁寧に読み進めるべきだろう。氏が受け継ぐ改革派の伝統は、カルヴァンの注解やウェストミンスター信仰告白が説教に引用されていることから見え隠れはする。しかし、第一の手紙のものと比較して、より一層新約聖書、それもパウロの他の手紙との関わりの中から語られることのほうが多いように感じる。みことばそのものを講解することに集中する氏の姿勢を本書ではより一層感じる。その背景には、語りかけられている群れが開拓して日の浅い、小規模の教会である点もあるのでは、と想像する。講解説教を生み出すのは、聖書のテキストと説教者だけではない。その説教を聞く教会も説教に大きく寄与するのだろう。

説教者と教会の協同の賜物であるこの説教集が広く読まれるように願うとともに、続く説教集の刊行を心待ちにしている。

（かまの・なおと＝関西聖書神学校校長）

（四六判・二六〇頁・定価二八六〇円・教文館）


**ヨベルの新刊／既刊案内**

**苦悩への畏敬**
**下村喜八〔著〕**
**ラインホルト・シュナイダーと共に**
**シュナイダーが生きているかぎり、ドイツは良心をもっている。**
ナチス政権下にあってドイツの良心そのものを生きた詩人であり、思想家であったシュナイダー。深い敬慕を込めて辿る。著者のキリスト教理解を根底から一変させたその生き様に倣い、キリストを仰ぎ、この時代と闘う。
**最新刊** 四六判美装・二五六頁・一八七〇円

〔ヨーロッパ思想史〕
**金子晴勇 キリスト教思想史の諸時代**
**アウグスティヌスの霊性思想〔別巻1〕**
新書判・平均二七二頁・各巻本体一三二〇円
**年内完結予定**

I『ヨーロッパ精神の源流』〔既刊〕
II『アウグスティヌスの思想世界』〔既刊〕
III『ヨーロッパ中世の思想家たち』〔既刊〕
IV『エラスムスと教養世界』〔既刊〕
V『ルターの思索』〔既刊〕
VI『宗教改革と近代思想』〔既刊〕
VII『現代思想との対決』〔既刊〕
別巻1『アウグスティヌスの霊性思想』〔新刊〕
別巻2『アウグスティヌス「三位一体論」を読む』

**ヨベル** *YOBEL Inc.* info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
**出版の手引き / 呈** （税込）

†本・批評と紹介

# 友会徒が創業した企業の一〇〇年超の興亡史に学ぶ

〈評者〉金澤周作

**チョコレートのイギリス史**
企業フィランソロピーの源流
山本　通著

ラウントリー社、キャドバリー社、友会徒（クエイカー）、フィランソロピー（博愛活動）――。本書を貫く四つのキーワードである。ふつうの日本人でこのどれか一つにでも知識か関心のある人はほとんどいないのではないか（本誌読者なら後二者には見覚えがあるかもしれないが）。いかにも手に取りにくい、あるいは飲み込みにくいテーマだ。しかし、そこで本書のタイトルである。『チョコレートのイギリス史』。なんと魅力的なことか。人の食指を動かす美しい糖衣だ。食べてみよう。噛み砕くと広がるのは、ただの文化史的な甘い風味ではない。タイトルから想像されるような大英帝国を彩る紳士淑女たちの華やかな暮らしぶり、多種多様な菓子商品のイラスト、チョコレートを用いた飲料や菓子のレシピ、といった類の情報は一切出てこない（よく知る意外な商品名は頻出するが）。むしろ、はるかに複雑精妙な味わいが楽しめる。

本書の扱う空間はイギリス、主たる時間枠はその最盛期である一九世紀後半から、二度の世界大戦を経て福祉国家となり、やがてその機能不全で苦しみ、再生を図る二一世紀初めまで。この時空間を、著者は政治、経済、社会の主要な展開過程によって区切り、近現代イギリス史のそのつどの特色を描き出すことで、冒頭の四つのキーワードが息づく歴史的背景を正確に設定する。過去の何かや誰かを理解するためには、それらが存在した時空間の、他とは異なる独特な歴史的背景の知識が不可欠である。ここが曖昧だと理解はおぼつかなくなる。その点、著者はその道の碩学であるから、読者は安心して身をゆだねることができる。

著者はイギリス経済史の中でもとりわけ経営史に造詣が深い。主著のひとつ『禁欲と改善』（晃洋書房）で詳述されるが、著者の根本的な関心は近代資本主義とそれを体現したイギリスの企業家たちの「職業倫理」との関係、すなわちマックス・ヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』に直結する、宗教と倫理と営利活動の問題系にある。そして、もうひとつの主著『近代英国実業家たちの世界』（同文舘出版）では、具体的な歴史的事例として、資本主義的な企業家を多数送り出した一七世紀半ばに起源する少数派のセクト、友会徒（クエイカー）の実態を濃密に論じている。本書は、こうした長年の研究蓄積を土台にして平易に書かれた、類書のないユニークなキリスト教史として読むことができる。

友会徒たちは個人の宗教的体験（「内なる光」）を重視し、博愛主義的な「社会的正義」を追求した。そんな彼らが一方で（利己的にみえる）生き馬の目を抜く営利活動に邁進し、他方で（利他的にみえる）社会調査や企業内福祉や幅広い慈善・博愛活動や福祉国家の建設にも身も心も捧げ尽くしたのはなぜか。他のキリスト者（の企業家）とどのような異同があるのか。本書はこうした諸問題を、チョコレートで成長を遂げた友会徒のライバル企業とその創業家一族の成功と失敗がない交ぜになった激動の一〇〇年超の歴史に即して、縦横に論じている。

翻って現在、ＳＤＧｓが叫ばれる新自由主義の世界で、企業家たちは、キリスト者たちは、どのような信念をもって進んでいくべきなのか。考える素材という意味での食べ応えは保証するので、ぜひご賞味あれ。

（かなざわ・しゅうさく＝京都大学大学院教授）

（四六判・二三〇頁・定価二九七〇円・教文館）

新刊

**宗教と病**
**聖書的信仰の観点から**

上智大学
キリスト教文化研究所
川中　仁 編
●四六判並製　251頁
定価 2,200円

本書は、2022年の聖書週間に上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論文を収録した。

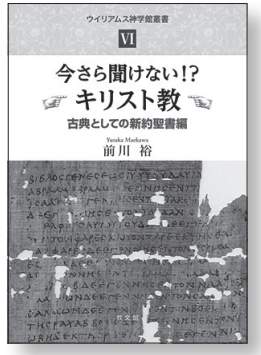
旧約聖書の人々は
病とどう差し向かったか
並木浩一
●
イエスの癒し
―病、穢れ、悪霊憑きについての
新約時代の見方と
イエスによる癒しの救済的意味―
本多峰子
●
マタイ福音書における
二人の盲人の治癒
角田佑一

ISBN978-4-86376-097-4

LITHON［リトン］
〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

# 新約聖書概論書の新たな形を提示する

〈評者〉**菅原裕治**




ウイリアムス神学館叢書Ⅵ
**今さら聞けない!?**
**キリスト教**
古典としての新約聖書編
前川　裕著

本書は、「今さら聞けない!?キリスト教」の第六弾です。書籍の分類としては、新約聖書の概論書ですが、本の帯に「テキストの多様性の謎に迫る」とある通り、新約聖書を教会の正典という枠組みを超えて、様々な観点や角度からとらえ、また、広い内容を取り扱っています。そのような複雑な内容を明瞭な文章で解き明かし、絵や図、写真などを効果的に用いている点が特徴です。

「第1章　新約聖書とは何か」は、最初に書かれたのはパウロ書簡という前提のもと、各文書の成立過程を説明しています。ことにギリシア語写本の写真掲載は、聖書が人間の継承作業を経た歴史的文書であることを具体的に解説しています。また、その聖書の解釈へと論が展開し、そこに史的イエスの問題が深くかかわることを示し、「第2章　イエス」へと続きます。この章では、イエスの実在性について聖書外資料にも触れつつ、イエスに関する伝承と史実と推測について述べています。ここで注目すべき点は、「私家版『イエス伝』」として、著者自身の史的イエス像を明らかにしているところです。イエス像は、その人の信仰や思考に強く影響します。それが例示されているのです。この章の後半では、イエスのたとえの難解さについて、その社会的背景から説明し、トマス福音書にも触れています。

「第3章　パウロ」は、パウロの歴史性や神学について、信仰義認、十字架の強調という既存の要点を明快に説明しています。注目すべきは、パウロはイエスに会ったことがないと明言し、パウロがイエスを正しく理解していたのか、という問いをもって論じているところです。その問いを受けて、この章はパウロ理解の新潮流について言及して終わっています。



「第4章　新約聖書の個別文書について」は、いわゆる新約聖書概論です。ここを熟読するだけでも概論的知識の基礎は固められるでしょう。その概論を経て「第5章　新約聖書の全体的思想」に続きますが、ここは新約聖書神学の概論です。ことに「新約神学は可能か」という問いから始まっている点が重要です。評者も神学校の新約神学の授業を、必ずこの観点から始めますが、新約聖書神学という考察は自明の存在ではなく、諸要素が関わり成立するからです。その重要な要素の一つに、イエスの思想と活動に関する理解とその受容のあり方があるのですが、それについてユダヤ教や異端との対立との関係、イエスの神格化と教会の組織化との関係に触れつつ述べています。この章の結びにある、「読者もご自身の『新約聖書神学』を考えてみてほしい」という言葉は、読者の学ぶ動機を高めるでしょう。「第6章　『イエス』から『キリスト』へ」は、5章を補足するようにイエスの神格化、すなわちキリスト化の過程について述べています。

「第7章　聖書の記述の特徴」は、福音書の並行箇所における物語描写の相違について、歴史的観点だけではなく、共時的な観点からも論述しています。ペテロの否認の物語の相違点を、図式化?して比較・説明しているのは、大変面白い試みです。「第8章　新約時代の書物」は、新約時代の文書の様式、素材、媒体について説明しています。「第9章　新約聖書の成立と外典・偽典」は、新約聖書の継承過程には翻訳作業も含めた神学的編集があり、結果として外典・偽典が派生したことなどが述べられ、トマス福音書、ユダ福音書などについても触れています。

「第10章　新約聖書本文の研究と聖書翻訳」は、本文批評の歴史と意義から始まり、日本語訳の歴史について解説しています。本田哲郎訳や山浦玄嗣訳（ケセン語訳）などについても触れている点が、新しさを感じます。

本書は、日本聖公会の聖職養成機関の一つであるウイリアムス神学館の叢書です。しかし、読む人が誰であれ、様々な疑問に答え、また新たな問いと学びへと導く内容を持っています。新約聖書概論書の新しいあり方の一つといえるでしょう。

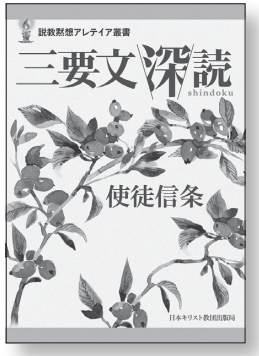
（すがわら・ゆうじ＝日本聖公会東京教区東京聖三一教会牧師、日本聖書神学校教授・新約学）

（A5判・二六二頁・定価二二〇〇円・教文館）

†本・批評と紹介

# 使徒信条は聖書全体の要約 体に深く染み込むまで味わおう

〈評者〉 **松本雅弘**




説教黙想アレテイア叢書
**三要文 深読 使徒信条**
平野克己、小泉 健、吉田 隆、荒瀬牧彦、安井 聖ほか著

昨年11月、私が仕える教会の中会総会にゲストとして来られた先生が「いまや日本の教会は停滞期から衰退期に突入した」と語られ衝撃を受けました。その背景の一つとしての「コロナ」が私たち教会に与えた影響の大きさに改めて向き合わされました。

「神よ、変えることができるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ」。これは、「ウィズ・コロナ」と呼ばれる日常を歩む中つねに私の心の中にある祈りとなっています。まさに、このようなタイミングで、本書、『三要文 深読 使徒信条』を手にしました。

本書は、『説教黙想アレテイア叢書』として新しく刊行されたシリーズの2冊目、「使徒信条をめぐる黙想集」です。「深読」と名付けられたタイトルに心惹かれます。その意味を説き明かす平野克己氏による「使徒信条 深読のすすめ」から始まり、「序論」を経て22に分けての使徒信条の「黙想集」となっています。

「使徒信条は、聖書全体の要約です。聖書の第1ページは天地創造から始まります。最終ページは、主イエス・キリストが再び来てくださることで世界が完成されることを約束し、この世界への祝福の言葉で終わります。天地創造から世界の完成まで、私たちの短い人生を超えた、実に壮大な神の物語の中に、私たちは『我は信ず』と語りつつ足を踏み入れます」（本書5～6ページ）と、使徒信条の何たるかが語られていましたが、こうした使徒信条でもあるからこそ、「変えることのできるものと、変えることのできないものとを識別する知恵」をいただく意味でも、本書の出版は今の日本のキリスト教会にとって実にタイムリーだと思います。

一昨年、半年余りをかけ使徒信条を説教した経験から、その時の苦労の一つが、テーマにそくした聖書テキストの選定にあったと思います。本書を読みながら、幾度か〈えっ？ ここから？〉と選定の意外性にハッとさせられました。改めて歴史の教会、そして同時代を生きる説教者たちの黙想や説教に触れることの大切さを知らされます。例を挙げるとすれば、「聖徒の交はり」を担当した朝岡勝氏は、「『聖なる公同の教会』の可視的な形態としての地上の教会を『聖徒の交はり』と信じ告白する信仰を、聖書からどのように聴き取ることができるのだろうか。とりわけ新型コロナウイルス感染症という災禍の只中にある私たちにとって、教会はどのような存在であり、またどのようであらねばならないか。私たちが聴くべき御言葉の選定は重要である。ここではヨハネ黙示録1章に記される、パトモスのヨハネに耳を傾けてみたい」（173ページ）と綴り、黙示録1章9節の豊かな「深読」を展開しています。

執筆者の多くは現役の牧師たちで「信頼できる黙想の導き手」です。それぞれを任された牧師たちが「スピードを落とし、ひとつの文章に留まり、じっくり時間をかけながら言葉の深みに分け入ってい」き、「そうして、自分のものの見方や立ち居ふるまいに影響を与えるまで文章を味わっていく」（3ページ）、丁寧な「深読」作業を通して神に聴いていきます。まさにバトンリレーのような個々の説教者のユニークな視点による黙想や解説を通し、歴史の教会が使徒信条を告白することで大事にしてきた「変わることのない」キリスト教信仰の豊さを味わうことができました。

本書のような「説教黙想」とは、本来、礼拝で説教の役割を担う牧師のための手引きでしょうが、聖書全体の要約とも言える「使徒信条」を取り扱っているがゆえに、一般の信徒にとっても有益な信仰の手引きであり、求道の友にとっては格好の入門書となっています。いま、心からお薦めの1冊です。

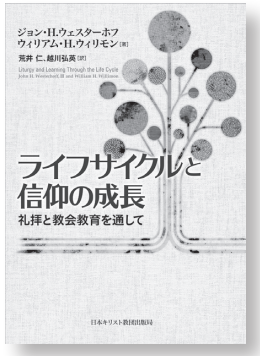
（まつもと・まさひろ＝カンバーランド長老キリスト教会高座教会牧師）

（A5判・二一六頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局）

†本・批評と紹介

# 礼拝の刷新によって共同体の生を刷新する

〈評者〉古谷正仁




**ライフサイクルと信仰の成長**
礼拝と教会教育を通して
ジョン・H・ウェスターホフ、W・H・ウィリモン著
荒井　仁、越川弘英訳

この本の帯にはこうあります。「もっと深く人生に関わる礼拝を」ショックでした。私達の礼拝の持つ弱点を、鋭く突かれた思いがしたからです。

そして序文には、それを更に鋭くえぐるように、こう書かれていました。「本書は、牧師、宗教主事、典礼や礼拝に関わる人々、そして信仰教育に携わる委員会、さらに信仰教育や教理問答を通して礼拝を刷新することに関心を寄せる人々、礼拝を通して個々人と共同体の生を刷新することに関心を寄せる人々を対象に記されている」。

この言葉は、礼拝を大切なものと考えながら、実は「教会とそれに連なる人々の生を刷新する」等という大切なことを、すっかり忘れてしまっていた私の日常、特に牧師としての日常に、冷水を浴びせたのです。そして読み進めて行くうちに、それは私だけではなく、本書を手にした「礼拝を大事にしていたつもりのキリスト者たち」にも及ぶであろうことを感じ、是非多くの人と共に読みたいと願うようになりました。

特に神学校の実践神学のゼミや、共に学び合おうと願う方々の読書会や勉強会などで、テキストとして取り上げていただきたい書物です。きっとその豊かな内容に、深い話し合いが生まれると信じています。

著者のウェスターホフもウィリモンも、実践神学の分野で多くの深い研究と実践を積み重ねてきた著名な神学者であることや、また翻訳を担当して下さった荒井仁、越川弘英の両氏も、我が国の実践神学の研究家、実践家として、信頼を得てこられた方々であることは、既に読者の皆さんが良くご存じのことでしょう。



ウェスターホフとウィリモンは、マンネリ化しがちな教会の礼拝の刷新に、大いなる野心を抱いて執筆したのではないかと想像しますし、荒井氏、越川氏もご多忙な中、このボリューム豊かな本書を、よく見つけ出し、こなれた日本語で訳してくださったものだと感謝しきりです。

目次を見ると十五にわたるチャプターの中には、「洗礼――キリスト者の入信儀礼」「聖餐――キリスト者の養育」といった定番ともいえる項目があり、それに続いて、「信仰共同体のアイデンティティの成長――教会暦」「キリスト者個人のアイデンティティの成長」「霊的な成長――個人で、そして共同でささげられる日ごとの祈り」「牧会的諸式――個人と共同体の生における移行期」といった興味をそそられる主題もあります。「離婚の認証」という度肝を抜かれるものまで提示され、そのための礼拝プログラムまで示されているのです。

本書を記した二人の神学者はこのチャプターにおいて、次のような意味のことを語っています。

①離婚率が過去十年でうなぎ上りに増加し、新たな結婚の数と同数の離婚が起こる地域もあると聞く。このような社会の中で、教会はこの深い痛みを経験する人々に配慮するために何を行っているか、自ら問い掛けなければならない。

②離婚を決意した二人に対する神の言葉とは何か。その結婚を守ることが出来なかった私達に対する、神の言葉とは何か。それらの問いから、離婚に対する礼拝的な応答を構築する試みが生まれてくるであろう。

二人の著者は、その問いを深く自らに問い掛け、一つの礼拝試案を提示するに至ったのでしょう。

結婚だけでなく、離婚という出来事もそれを行おうとする二人だけの問題ではありません。教会が責任的に関わろうとしなければ、共同体としての責任放棄です。私達は今、それを特に知るべきことだと感じました。それなしに、「礼拝を通して個々人と共同体の生を刷新することに関心を寄せる」ことなど絵空事です。「個人の問題だから」と傍観する訳にはいかないのです。すぐには取り組めなくても、課題として認識する必要はあるでしょう。それを知るためにも本書を強く推薦したいと思いました。

（ふるや・まさよし＝日本基督教団蒔田教会牧師、日本聖書神学校教授）

（A5判・二〇八頁・定価三〇八〇円・日本キリスト教団出版局）

†本・批評と紹介

# 魂の霊的成長を真剣に求める人々の必読書

〈評者〉古谷正仁

**聖書に生きる**
**365日一日一章**
ユージン・H・ピーターソン著
友川　榮監訳
川上直哉、齋藤　顕、サム・マーチー訳

この度、邦訳として400頁を越えるボリュームを持つ本書が、私が尊敬する、そして多くの学びを与えてくださった方々の手によって訳されたことに、大きな喜びと感謝を感じる。本書は、本当に不思議な導きと支えによって、世に送り出されたものの一つである。

先ず斎藤　顕牧師について記したい。彼は若くして渡米し、神学教育を受け、20年近い牧会経験を積んだ後に、横浜ユニオン教会に多年に亘って仕えられた。交わりを大切にされる方で、本書を監訳された、当時横浜の上星川教会牧師であった友川　榮先生や私と、個人的な交わりの他に本書の著者ピーターソンのヨナ書に基づく牧師論の読書会を導いてくださった。

その難解かつ深淵で、実践的な牧師論を基に、3人で牧会の悩みを分かち合い、話し合ったのは良い思い出だ。後に元英語教師で、現在小説を書き、各地でコンサートを主催しておられる音　一平氏が加わってくださり、信徒の立場から助言してくださった。「牧師は独り働くものではない」という基本を、私は学ばされたのである。ヨナ書に即して言えば、「神に示されたニネベに行かず、この世的な栄光を求めてタルシシュに行こうとする」牧師が私を含めいかに多いことか。それを示されたのだ。監訳者の友川牧師が本書巻末に記されているように、「牧師は神の為さることを邪魔することなく、唯々そこに住む方々を愛し『じっくり、こつこつ』と牧会に励むよう神から遣わされている」（431頁）のである。

そして友川牧師は、上星川教会辞任後、いくつかの教会を経て故郷の田尻教会に仕えられるのだが、斎藤牧師が第2の故郷である米国へ渡られた後も、ピーターソンの学びをある種の執念のように続けられ、2名の良き協力者を得て、お連れ合いやご自身の闘病の経験を重ねながら、また同志であった斎藤牧師の召天の悲しみに耐え、本書の出版に漕ぎつけられたことに、大きな感動を覚えるものである。

ご存じの方も多いと思うが、本書の著者ユージン・H・ピーターソンは29年の牧師生活の後、カナダのバンクーバーにあるRegent Collegeにおいて、「霊性の神学」の教鞭を取り、1998年神学校退職後、各地で説教や講演を精力的に行い、2018年に心不全のため85歳で召天している。ここで特に心に残ったピーターソン節をお伝えしよう。

「誰もが知っている通り、病気になり、悲しみ、傷ついたとき、誰かに助けてもらった経験があるはずである。しかしそのような試みは、しばしば失敗に終わる。病院のベットに臥し、意気消沈し、痛みがある時、牧師や友人が来て『全てうまくいくから』と励ますのだが、そのような『うわべだけの元気な在りよう』は何の助けにもならない。（中略）だが、わたしたちが耐え抜いていることを十分に自然と分かち合う勇気と忍耐深い誰かが傍にいれば、その時こそ助けとなる。――すなわち、わたしたちをしっかり見つめ、『大切な人間』としてありのままに関わり、わたしたちに大きな敬意を表してくれる人々である。」（5月9日）

「（前略）そうわたしはカワセミを覚えていた。（中略）このカワセミは魚を獲るために湖畔にある枯れ枝にじっと座っていた。カワセミが魚を獲る方法は、眺めていて楽しいものだった。何ともカワセミは水面に急降下したが、27回、魚を獲ることができなかった。（中略）『霊的な形成』のためには、前提としなければならないことがある。それは、このカワセミが示していることである。急いではいけない。（後略）」（12月3日）

このように本書には、私たちの魂の霊的形成のための、尽きない宝がちりばめられている。真剣に霊的成長を求める人のための、必読・座右の書の一つである。

（ふるや・まさよし＝日本基督教団蒔田教会牧師、日本聖書神学校教授）

（A5判・四四〇頁・二七五〇円・ヨベル）

■日本キリスト教団出版局

## 1冊でわかる聖書66巻+旧約続編

小友　聡、木原桂二著

やさしい語りで、聖書66巻を1巻ずつ説明する。『信徒の友』での連載に旧約続編を加えて書籍化。聖書各巻個別の内容と聖書全体とが同時にわかる一冊。

四六判・192頁・定価2200円

## 交読詩編　聖書協会共同訳

『交読詩編　聖書協会共同訳』編集委員会編

『聖書　聖書協会共同訳』に準拠した詩編全150編の交読文。礼拝で交読するだけでなく、日々持ち歩き、折々に詩編を味わうためにも。　B6判・176頁・定価1650円

## 保育者の祈り――こどものために、こどもとともに

望月麻生監修・著　小林路津子、新井　純著

キリスト教幼児施設の職員たちはキリスト者であるとは限らない。祈りの習慣のない保育者や関係者が公私ともに本音で祈れる62の祈りを収録。　B6判・96頁・価格未定

■キリスト新聞社

## 神の民の解放――出エジプト記1～18章による説教

松本敏之著

ユダヤ民族が永遠に記憶し続けるエジプト脱出の物語を、日本の教会が語り継ぐとは。現代社会の諸問題を見つめ、出エジプトを語り直す、創世記に続く旧約説教集第二弾。

四六判・298頁・価格未定

INFORMATION
近刊情報

■教文館

## ［縮刷版］旧約新約聖書大事典

旧約新約聖書大事典編集委員会編

聖書学だけでなく、古代言語学・歴史学・考古学・宗教学などの成果を結集し好評を博した大事典が、手に取りやすい縮刷版で復刊！　期間限定の購入特典として『聖書地図』を贈呈。

A5判・1456頁・定価29700円

## ［新装復刻版］聖書地図

旧約新約聖書大事典編集委員会編

『旧約新約聖書大事典』（1989年発売）に添付され、後に別売された付録地図を復刻！　大判のパレスチナ地図、東地中海地図にエルサレム歴史地図と聖書地名索引を付した。

B5判・定価3740円

■新教出版社

## 不安とはなにか――その四つのかたち［仮題］

フリッツ・リーマン著　赤坂桃子訳

人は不安から逃れることはできない。では不安に対処し、バランスの取れた人生を生きるためにはどうすればよいか。深層心理学的視点から不安を四つの類型・パーソナリティに分類し、対処法を豊富な例証と共に記述。一九六一年の初版以来今日まで百万部近くを売り上げた戦後ドイツのベストセラー。

四六判・330頁・予価3500円



| 書店名 | 郵便番号 | 住　所 | 電　話 | ファックス | URL | メール | 郵便振替 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道キリスト教書店 | 060-0807 | 札幌市北区北七条西６丁目 | 011-737-1721 | 011-747-5979 | http://www.jb-shop.com | sasaki@jb-shop.com | 02770-2-56520 |
| 善隣館書店 | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37 | 019-654-1216 | 共用 | | zenrinkan_syoten_0530@yahoo.co.jp | 02350-0-874 |
| 仙台キリスト教書店 | 980-0012 | 仙台市青葉区錦町1-13-6 東北教区センター・エマオハウス | 022-223-2736 | 共用 | | fqcwk524@ybb.ne.jp | 02230-0-31152 |
| 恵泉書房 | 260-0021 | 千葉市中央区新宿2-9-2 千葉クリスチャンセンタービル | 043-238-1224 | 043-247-3072 | http://www.keisen.christian.jp | keisen@vesta.ocn.ne.jp | 00120-9-43619 |
| 教文館 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.kyobunkwan.co.jp | xbooks@kyobunkwan.co.jp | 00120-2-11357 |
| 待晨堂 | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1 | 03-3333-5778 | 共用 | http://taishindo-books.jimdo.com/ | taishindo@jcom.home.ne.jp | 00110-8-95827 |
| バイブルハウス南青山 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3567-1995 | 03-3567-4435 | http://biblehouse.jp | biblehouse@bible.or.jp | 00160-2-18410 |
| 東京キリスト教書店 | 162-0814 | 東京都新宿区新小川町9-1日キ販内（外販専門） | 03-3260-5663 | 03-3260-5637 | | tokyo@nikkihan.co.jp | 00130-3-60976 |
| 横浜キリスト教書店 | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96 | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www7b.biglobe.ne.jp/~yokohamacbs/index.html | sksch@mva.biglobe.ne.jp | 00250-4-2512 |
| 清光書店 | 951-8114 | 新潟市営所通一番町313 | 025-229-0656 | 共用 | | | 00560-8-51419 |
| 静岡聖文舎 | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26 | 054-260-6644 | 054-260-5612 | http://www.s-seibun.co.jp/ | info@s-seibun.co.jp | 00810-8-26558 |
| 名古屋聖文舎 | 466-0045 | 名古屋市昭和区広路町3-16 日本キリスト教団東海教区内 | 052-680-8090 | 052-680-8091 | http://nagoya-seibunsha.la.coocan.jp/ | nagoya-seibunsha@nifty.com | 00810-5-14073 |
| 京都ヨルダン社 | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東入ル | 075-211-6675 | 075-211-2834 | http://web.kyoto-inet.or.jp/people/kjordan/ | kjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp | 01010-2-594 |
| 大阪キリスト教書店 | 530-0013 | 大阪市北区茶屋町2-30 | 06-6377-6026 | 06-6377-6027 | http://osakacbs.web.fc2.com/ | ochrbook@river.ocn.ne.jp | 00990-3-43009 |
| 神戸キリスト教書店 | 650-0021 | 神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F | 078-331-7569 | 078-945-9388 | | kobex@nikkihan.co.jp | 00170-2-421390 |
| 広島聖文舎 | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7 | 082-208-0022 | 082-208-0177 | | hseibun0951@yahoo.co.jp | 01360-4-1958 |
| リバーサイドブックス | 779-1105 | 徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13 | 090-8694-4986 | 050-3142-3017 | | ykwbt3@gmail.com | 16220-17974891 |
| 松山キリスト教書店 | 790-0804 | 松山市中一万町1-23 | 089-921-5519 | 089-921-5413 | http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/index.html | sksch@dokidoki.ne.jp | 01650-1-2120 |
| 新生館 | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7 | 092-712-6123 | 092-781-5484 | http://www.sinseikan.jp/ | info@sinseikan.jp | 01750-5-10932 |
| キリスト教書店ハレルヤ | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23 | 096-372-3503 | 共用 | | k-haleruya@bible.or.jp | 00160-2-18410 |
| 沖縄キリスト教書店 | 904-2143 | 沖縄県沖縄市知花４丁目12-33 | 098-927-0220 | 098-938-1102 | https://www.okinawacbs.net | info@okinawacbs.net | 01790-4-152916 |

※一般書店関係の方は　日キ販営業部　℡ 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2023年11月号

**特集　東アジアにおけるキリスト教の可能性**
**寄稿者**＝藤本憲正、渡部和隆、朴銀瑛、神山美奈子、徐亦猛、藤原佐和子

**好評連載**　八木重吉の聖書（今高義也）私は告白する、私の神を（長尾優）、地域から考える在日朝鮮人史と教会史（金耿昊）、グレート小林と三人の女（飯田華子）、神と「女性的なるもの」を辿って（後藤里菜）、古代イスラエル文学史序説（勝村弘也）ほか

A5判・定価660円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社　TEL：03-3260-6148
Email: sales@shinkyo-pb.com


## 編集室から

ふと立ち寄った古書店で、背の焼けた『深い河』を見つけた。今年は遠藤周作生誕一〇〇周年。これも出会い、と手に取った。しばらく読み進めていると、乱筆で「日本基督の現状」と書き込みがあった。矢印の先には女子大生・美津子が、信者である学生を揶揄する言葉。書き込みは好きではないが、古本である以上仕方ない。

書き込みは、ふとした拍子に現れる。美津子が信者である学生・大津の信仰を「惰性」と切り捨てる場面には「信仰への戸惑い」。「基督教の大学に入り、洗礼など受けない者」には「まともな人間」。神のことを「玉ねぎ」と呼ぶシーンには「虚構」。その表現や筆跡から、信仰に対して疑問を抱く中年男性の姿が浮かんできた。「オジサンはそう感じたんだ」「なるほどねぇ」。気づけば中年オジサンとの会話が脳内で始まっていた。オジサンは修道士となった大津に共感していく。彼の言葉に傍線が増え、時に「その通り」と書き込む。そして物語のクライマックスにある大津の祈り、「あなたは、背に人々の哀しみを背負い、死の丘までのぼった」。オジサンはこれを丸で囲み、横に大きく「愛」と書いた。それ以降、オジサンは得心が行ったのか姿を消した。奥付には九九年発行。二〇年以上前にこの本を旅し、大切なものを見つけた人の足跡に、一人で読む時以上の興奮と大切な友を得たような不思議な読後感を味わった。書き込みのある本、いいじゃない。

さて、先日フリマアプリに出品した本に書き込みの有無の質問が届いた。待ってました。「あります！」。あれから数週間、その本は未だ本棚で出番を待っている。（桑島）

## 予告

**本のひろば**

**2023年12月号**

**本・批評と紹介**

（巻頭エッセイ）宮谷尚実（書評）エーティンガー著『聖なる哲学』、柴崎聰著『詩集　文脈に立つ短剣符』、青山学院宗教主任会編著『今日と明日をつなぐもの』、木村公一著『非暴力による平和創造』、富田正樹著『疑いながら信じてる50』、大島力、川崎公平著『聖書の祈り31』、及川信監修『日本正教史』、柏木貴志著『アウグスティヌス』、イグナチオ・デ・ロヨラ著『霊操』他

**新教出版社** 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP：http://www.shinkyo-pb.com、メール：eigyo@shinkyo-pb.com

# イザヤ書註解 I　1—10章

**10月25日**

**ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳**

1551年に出版されたカルヴァン初の旧約註解。ヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組んだかが如実に伝わる。邦訳全5巻。

◆A5判・定価6820円

# 内村鑑三　闘いの軌跡

**9月25日**

**関口安義著**

内村の激動の生涯を実証的な調査に徹して描き、新たな内村像を提示した評伝大作。著者は芥川龍之介研究から出発し、芥川人脈の多くの知識人の評伝をものしてきた。本書は『評伝矢内原忠雄』に次ぐライフワークであり、遺作となった。

◆A5判・定価7975円

▼同じ著者による既刊

# 評伝 矢内原忠雄

生涯をつぶさに追跡した矢内原伝の決定版

◆A5判・定価8800円

# カール・バルト《教会教義学》の世界

神の自由な恵みへの賛美！

**好評**

**寺園喜基著**

邦訳で36巻に及ぶ、20世紀の神学的記念碑ともいうべき《教会教義学》の内容を、一般読者に向けて平易に解説。神学自体への無二の入門書でもある。

◆四六判・定価3080円

# ユダヤ人も異邦人もなく

**山口希生著**　**パウロ研究の新潮流**

パウロの宣教とは？信仰義認を重視する従来のパウロ理解に異議を申し立て、新約学界で激しい論議を呼んでいる「パウロへの新しい視点」（NPP）を徹底解説。

◆四六判・定価2475円

# 牧会書簡　現代新約注解全書

**10月10日**

**辻　学著**（つじ・まなぶ氏は広島大学教授）

牧会書簡と総称される「第一テモテ」「第二テモテ」「テトス」の3書簡を徹底的に読み解いた世界最高水準の注解書。『福音と世界』に70回にわたり連載された内容に加筆を施し、優に700頁を超える大冊として堂々完成。邦語で類書のないきわめて貴重な労作。

◆A5判・定価9900円

本のひろば　第七九一号　二〇二三年一一月号
一九五七年七月一七日　第三種郵便物認可
二〇二三年一一月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所　〒162-0814　東京都新宿区新小川町九－一　一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三－三二六〇－六五二〇　振替〇〇一七〇－五－一一六七九
発行人　金子和人　編集人　村上信児　印刷所　モリモト印刷㈱
発売所　日本キリスト教書販売株式会社　電話〇三－三二六〇－五六七〇
定価七八円（税抜七一円）（〒63円）
一年分一三〇〇円（送料共）

日本キリスト教団出版局　〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp　ホームページ https://bp-uccj.jp《価格10%税込》

池谷陽子さんが描く、四季折々の子どもと動物たちが楽しく遊ぶ姿

# POSTCARD BOOK 森のなかまたち

池谷陽子 絵

2023年10月20日刊行予定

長年『季刊 教師の友』の表紙を飾り、子どもたちに愛されてきた池谷陽子さんの「森のなかまたち」が絵はがきになりました。春、夏、秋、冬の1年を通して、熊さん、羊さん、鳥さん、うさぎさんなど森のなかまたちをいきいきと描きます。

◆ポストカード16枚・定価1,320円

『信徒の友』2021～22年度の連載に旧約続編の記事を加えて単行本化

# 1冊でわかる聖書66巻 +旧約続編

小友 聡／木原桂二

2023年10月25日刊行予定

旧約聖書39巻と新約聖書27巻、さらに旧約聖書続編の各書のあらすじやポイントを簡潔に紹介。各書が何を語っているのかを大まかに捉えることで、聖書全体のメッセージや福音についてより理解が深まる。洗礼を受ける方やこれから聖書を読み始める方にもお勧め。

◆四六判 並製・192頁・定価2,200円

本のひろば.com